

能初めての方、歓迎致します。

若手能楽師が流派を越えて神遊を結成した。
 本当の能の良さを広く伝えるために、次代の能を担う

演者・神遊とは…



柿原弘和



一噌隆之



宮増新一郎



観世元伯



観世喜正

神遊



第一部

ワークショップ (1,2,3それぞれ約20分ずつ)

1.ストーリーを知る

演者自らが船弁慶のストーリーをわかりやすく解説します。

2.囃子の魅力

船弁慶に用いる楽曲・演奏の一部を取り上げ、お囃子の効果をここで知っておくと、このあとの能が一層楽しくなります。

3.装束を着る

普段は楽屋で行う能装束と能面の着付の一部を舞台上でおみせします。艶やかな装束や能独特の着付方法をご覧ください。

第二部

能・狂言を観る

【狂言】 仏師 (ぶっし)

自邸に自仏堂を建立した田舎者(アド)が、安置する仏像を求めに都へやってくる。大声で仏師(仏像を造る職人)を探し歩く田舎者。これをだまそうとすっぱ(詐欺師・シテ)が、我こそは仏師なりと偽り、翌日までに仏像を造り上げることを請け負う。翌日になり田舎者が約束の場所に出向くとそこにあったのは…。

単純なストーリーながら、笑いの感性をくすぐる秀作。誇大な舞台装置を必要としない狂言独自の表現方法をお楽しみください。

シテ・すっぱ(仏師) | 野村万禄
 アド・田舎者 | 小笠原 匡

【能】 船弁慶 重前後之替 (ふなべんけい おもきぜんごのかえ)

平家を滅ぼし意気揚々と都へ戻った源義経(子方)だが、兄頼朝に嫌疑をかけられ西国へ下ろうと決意する。摂津国大物の浦で、弁慶(ワキ)のすすめによってここまで同行した恋人静御前(前シテ)を都へ帰すことになり、名残の酒宴で静は、義経の不運を嘆きながらも別れの舞を舞う。一行が船を出すと海は荒れ始め、壇之浦に滅んだ平知盛(後シテ)や平家一門の亡霊が波間に現れる。平知盛は薙刀を振り回して義経主従に襲いかかるが、やがて弁慶に祈り伏せられ退散する。

同じシテが全く違う人物を前後で演じ分けます。船頭(アイ)の掛声やお囃子の波風の表現など、見せ場がたくさん的人气曲です。

時:平成13年10月12日(金)

於:門司港レトロ特設舞台

◆開場 17:00 ◆開演 18:00

◆座席料 S席 7,000円
 (全席指定) A席 5,000円
 B席 3,000円

◆電話予約とお問い合わせ

門司港レトロ倶楽部 ☎093-332-0106

(月~土/午前9時~午後5時)

〒801-0852 北九州市門司区港町7-18

チケットの購入方法について

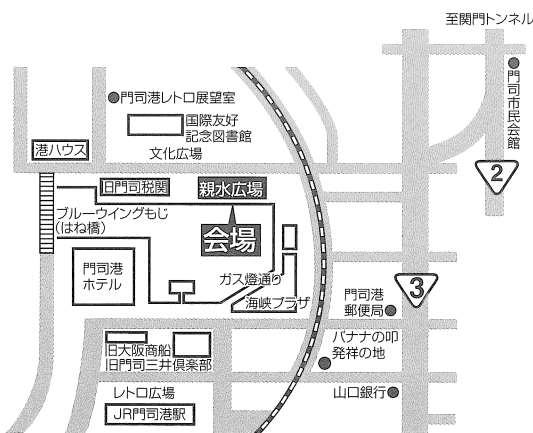
必ず電話予約して下さい。予約後すぐに送金して頂き、入金をもって正式受付と致します。

①送金は直接ご持参頂くか、又は郵便局の郵便振替で送って下さい。

口座番号01730-8-89627

加入者名:門司港レトロ倶楽部

②送金が予約から一週間過ぎてても着信しない場合は、予約が取り消しになりますのでご注意ください。



※駐車場はありませんのでJRをご利用下さい。

| | |
|------------|-------|
| 前シテ・静御前 | 観世喜正 |
| 後シテ・平知盛の幽霊 | 鷹尾美里 |
| 子方・源義経 | 福王和幸 |
| ワキ・武蔵坊弁慶 | 是川正彦 |
| ワキツレ・義経の家来 | 野村万禄 |
| アイ・船頭 | 一噌隆之 |
| 笛 | 宮増新一郎 |
| 小鼓 | 柿原弘和 |
| 大鼓 | 観世元伯 |
| 太鼓 | 津村禮次郎 |
| 後見 | 坂口貴信 |
| 後見 | 上田公威 |
| 地謡 | 鷹尾維教 |
| 地謡 | 森本哲郎 |
| 地謡 | 鷹尾章弘 |
| 地謡 | 上田大介 |
| 地謡 | 長山耕三 |